

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～22年度国際ロータリーテーマ

第1684回例会

令和3年10月21日(12:30～13:30)



○ソング

- 四つのテスト

○ビジター

- 福島南RC 大橋廣治様 ●中央分区ガバナー補佐 鈴木美恵子様

○スマイルBOX

- 福島南RC 大橋廣治様 (スマイルします。)

●中央分区ガバナー補佐 鈴木美恵子様 (「ふくしまから贈る感謝とエールのコンサート」「レディロータリアンとの交流の集い」にご協力いただき感謝の気持ちを伝えに参りました。尊敬する大橋パストガバナーのお話楽しみに聞きました。金田AGいつも感謝です。)

●鈴木孝幸会長 (大橋パストガバナー様、鈴木美恵子中央分区ガバナー補佐様、金田県南分区ガバナー補佐様、ようこそいらっしゃいました。卓話ありがとうございました。先日誕生日プレゼント頂きましてありがとうございました。)

●須藤正樹幹事 (大橋様、鈴木美恵子様、お越しいただきありがとうございます。ご講話ありがとうございます。)

●金田昇会員 (大橋パストガバナー、鈴木美恵子ガバナー補佐、ようこそおいで下さいました。今月、結婚45周年でした。お祝いありがとうございました。)

●永野文雄会員 (大橋廣治パストガバナー様、卓話ありがとうございました。先日、結婚祝いをいただきました。10月8日で「金婚式50年目」です。ありがとうございます。)

●中目公英会員 (本日午前中、コロナ禍で延期されていた、自然環境保全功労者として福島県知事表彰を受賞してきましたので。10月は会員誕生祝いと結婚記念祝いとのダブルで頂戴しましたので。大橋廣治PG様、卓話をありがとうございました。)

●鶴丸彰紀会員 (大橋様、鈴木様、本日はご来会ありがとうございました。大切なお話も感謝いたします。また、先日結婚記念日お祝いを頂きました。家族でおいしく頂きました。ありがとうございます。)

●佐藤清作会員 (パストガバナー大橋廣治様、本日は卓話をありがとうございました。中央分区ガバナー補佐鈴木美恵子様、ようこそ。県南分区ガバナー補佐金田昇様、ご苦勞さまでした。)

▶第1684回例会出席状況 (R3年10月21日)

① 出席免除を受けていない正会員数	50名
② 出席免除の適用正会員数	14名
③ 全正会員数	64名
④ ①の出席者数	24名
⑤ ①のメイクアップ者数	0名
⑥ ②の出席者数	9名
⑦ = ④ + ⑤ + ⑥ (メイクアップ補填後の出席会員数)	33名
⑧ = ③ - (② - ⑥)	59
⑨ = ⑦ / ⑧ × 100 (例会出席率)	55.9%

▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

鈴木孝幸会長



皆さん、こんにちは。本日も皆さんお忙しい中、例会にご参加いただきましてありがとうございます。まず初めに、本日のお客様をご紹介したいと思います。それでは鈴木美恵子中央分区ガバナー補佐様でございます。鈴木美恵子中央分区ガバナー補佐様におきましては、先週の日曜日のレディロータリアンの集いで大変お世話になりました。ありがとうございました。第2530地区、大橋廣治パストガバナー様でございます。大橋パストガバナー様は、2010年から2011年の年度にガバナーをお努めになりました。まさに、東日本大震災が発生した年度のガバナーでございます。我がクラブも今現在、コロナ禍に翻弄されながら日々例会を開催すべきか否かと悩みが尽きない年度が続いておりますが、震災直後の大橋ガバナーのご苦勞、本当にすさまじいものとお推察いたします。本日はどんなお話が聞けるのか、非常に楽しみにしておりますので、またよろしくお話ししたいと思います。続きまして、今日はお客様として紹介させていただきます。2530地区県南分区、金田昇ガバナー補佐様でございます。金田ガバナー補佐は、大橋パストガバナーがガバナーの時に我がクラブの会長でありまして、震災時の会長であります。当時の金田会長は震災直後にも関わらず、諸先輩から確かこんな時に例会やるのかと怒られたらしいのですが、その震災直後に開催いたしましたおにぎり例会。これは今ではもう伝説の例会と噂されております。本日はお話し期待しておりますので、よろしくお話ししたいと思います。次の話題は、先程出ましたレディロータリアンの交流の集いの先週の17日日曜日に大竹憂子会員、そして石川格子会員、そして兼子会員拡大委員長、あと一般の方ですけれども古川ひろさんという方。そして、我々会長、幹事です。あと主催者側で、金田ガバナー補佐の7名で出席してまいりましたのでご報告いたします。改めて、兼子拡大委員長のほうから後日になりますが報告があると思います。詳細はそちらに任せることといたします。ご出席された皆さん、休日にも関わらずありがとうございました。最後になりますが、選挙の話題でございます。今、我がクラブ会員の上杉謙太郎会員が福島県の3区で舌戦を繰り広げております。ロータリークラブとしては、選挙活動、応援等はしてはいけないということになっておりますので、上杉会員も我々の仲間でございますので、是非個人個人で上杉会

員を応援しましょうと申し上げまして、今回の会長の時間としたいと思います。今日はよろしくお願い致します。

■幹事報告

須藤正樹幹事

- 上杉けんたろう総合選挙対策本部 本部長 轡田倉治：上杉けんたろう衆議院選挙活動事業のご案内
- 国際ロータリー第2530地区2021-22年度ガバナー事務所：YouTube視聴のご案内 第1回会長主催会議
- 国際ロータリー第2530地区2021-22年度ガバナー志賀利彦、ロータリー財団委員会 委員長 田久昌次郎：補助金管理セミナー開催のお知らせ

■委員会報告

○レディロータリアンの集いの報告 石川格子会員



皆さん、こんにちは。先程会長からも話がありました10月17日日曜日の1時から4時で、郡山の「オール・セインツウェディング」で行われましたレディロータリアンとの交流の集いについてご報告申し上げます。本日、参加いただいております鈴木美恵子中央分区ガバナー補佐のほうで司会を進めていただきまして、会員のほうは先程お話ししたとおりの会員で参加させていただきました。3名の女性の講演者の方のお話を聞きながら、女性の会員の活発な活動を実際にお聞きすることができました。その後には、井上仁一朗さんという福島出身のギタリストの方の曲を聞きながら楽しい交流になりました。

■本日のプログラム

ガバナー補佐例会

○国際ロータリー第2530地区

県南分区ガバナー補佐 金田昇様



皆さん、こんにちは。今、ご紹介に預かりました県南分区ガバナー補佐の金田でございます。今年度スタートしまして今もう3か月経ちました。公式訪問も順調に進んでおりますが、コロナ禍の中でいろんな難しい判断が求められることが多くてなかなか苦慮しておりますが、クラブのメンバーのこの元気な顔を拝見しながら、またよくサポートしていただいてしっかり活動できていることをご報告いたします。後程、活動内容についてはご報告させていただきたいと思います。それと先程、大橋パストガバナーのご紹介にありましたが、わたくしが25周年の会長やった時のガバナーでありまし

て、あと今日は鈴木美恵子ガバナー補佐がいらっしゃってますが、当時の会長でもありました。同期の会長でもありましたので、そういうご縁もありまして今日おいでいただいております。講師の紹介ということで、皆さんご存知でしょうけれども簡単に大橋廣治様のご紹介いたします。生年月日が1939年で、職業は内装仕上げ工事業ということで、福島で手広くお仕事をなさっております。ロータリー歴は、84年に福島南ロータリークラブにご入会なされて、その後2010～2011年度のガバナーをお努めなされました。その時に、いろんな思いがありまして勉強させていただいたのを覚えております。さて、ロータリークラブについてちょっと思うことがありまして、先日会員で非常に残念なことがありました。52歳という若さでメンバーの三瓶君がお亡くなりになりました。彼の葬儀に参列しながらいろいろ思う事がありました。彼の人生はどうだったんだろうとか、僕たちの人生はどうやって、私自身はどうやって生きていけばいいんだろうとか、そういうふうなことを僕自身も病気になったりしましたので、常々考えてた時ではあります。三瓶君のご葬儀に参列してどれだけ生きるかより、どのように生きていくのか、何をして生きていくのかということのほうが、とても大事なんだなというふうに思いました。長生きすることは当然大切ではありますが、その限られた時間の中で何をやるかということのほうが大切なのかなというふうに思いました。そう思った時に、仕事だったり、家庭だったり、社会活動だっていろんなことをやっていくわけですが、私にはどう生きるべきかということの一つの回答としてロータリーで生きていくということが一つあります。生きていくいろんな意味付けをしてくれるこういう会に参加できること。また、その中で活動できることがとても有意義でありますし、このチャンスというものを生かしていきたいなというふうに思います。また、こういう素晴らしいことに参加できることを広く広めながら会員を増強する。ただ、クラブのメンバーを増やす、何のために増やすんだということを考えた時に、会員拡大は決してそのクラブを維持するためのメンバー数を増やすのではなくて、こういうふうな奉仕の活動の輪を広げる。また、そういうことを知らない人にどんどんこういうふうな活動で素晴らしいことを教えてあげる。また、生きがいを受けてあげるというか、やらさせてあげることも私達の拡大の大きな意味なのかなと思います。そんな中で、今年はガバナー補佐を拝命した時に、去年の時点なんですけど、ちょうど隣に鈴木美恵子ガバナー補佐が

お席に座りました。最初に合った時に、速攻に女性会員の集いやりたいですよというお話をさせていただきましたが、鈴木ガバナー補佐が「いいですね。来年やりましょう。」ということで、先週のレディロータリアンの集いが開催するようになりました。これを契機に女性会員の拡大をしっかりやりながら、ジェンダーレスというふうな社会、またロータリーの中でもいろんな勉強をしながら女性会員の拡大というふうなことをやっていきたいなと思います。そういう意味では、我がクラブは約10パーセント、63名中6名の女性会員がいますので非常に地区内では多いほうですが、世界的にいうと三分の一ですね。30パーセントくらいの女性会員がいるのがよいということなので、それを目指してやっていきたいなというふうに思っております。さて、今日のご講話をいただく前にちょっと大橋ガバナーとの思い出ではないんですけども、わたくしが会長をやる時に地区研修協議会というのをやるわけですけども、それを福島で開催されました。その会場に行った時に、ちょうど5月だったかなと思うんですけどもお伺いした時に、階段の所に横断幕というか垂れ幕がありまして、そこに大きな字で「入りて学び、出でて奉仕せよ」という文字が下がってたんですね。それをじっと眺めながら、まあちょっと聞いたことあるなあ、ちょっとロータリアンとしては恥ずかしいんですけども、聞いたことあるなあというふうな思いで大体こんなイメージなんだろうなというふうな思いがありました。そこでちょうど大橋ガバナーが階段から降りていらっしやったので「入りて学び、出でて奉仕せよ」というのはどういうことでしょうかねというふうなことをちょっとお尋ねしましたところ、階段を下りながらお話しして声をかけていただきました。ロータリーの本質だよというふうなお話を、ちょっとそれに付随したお話もしていただいたんですけども、その後いろいろ経験していく中でロータリーに入って様々なことを学び体験し、それをロータリークラブの中で活用するだけではなく、外に出て奉仕活動に必ずしっかり結び付けていくんだということを学びました。その年に、いろんな経験した中でこの言葉が思い出として残っていますし、私のその後のロータリー活動の基本的な考え方の一つになっております。ロータリークラブに入って様々なことを学び、そしてそれを社会生活や家庭生活や企業活動にしっかり生かしていきたいなというふうに思いました。またその後、順風満帆な年度が終わるのかなと思いましたが、3月11日のあの震災がありまして、大橋ガバナーの類まれな指導力のもと、リー

ダーとはこうあるべきだというようなところを見させていただきました。リーダーとは、平時にいろいろなことをいろいろな方向性をつけたり教育をしたりというリーダーもいるでしょうけど、有事の時に力を発揮できるリーダー。また、そういう時にこそそのリーダーたる所以というか、リーダーの本質が問われるのかなと思っています。それから、こういうコロナ禍ですね。私たちのクラブの中でもコロナ禍というふうになった時に、その時の会長というのは大変な思いををすると思いますが、吉野会長、鈴木会長と非常に類まれなリーダーシップを発揮され、クラブの例会を閉会することなく淡々と例会をしていただき、みんなが集い安心安全、皆さんとの絆をしっかりと作っていきながらやってこれたこと。また、これからも先程会長からお話ありましたが、ウィズコロナということですのでそういう意味でもしっかりリーダーシップを発揮して進めて行けたらと思います。ちょっと長くなりました。大橋廣治パストガバナーのお話を是非楽しんでいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○国際ロータリー第2530地区

パストガバナー 大橋廣治様



こんにちは。先程、アシスタントガバナー昇さんに伺ったら、1回も休会してないということを聞きました。

凄いなと思って拝聴しておったんですけど。クラブによってはズームという

んですか、あれだと出席しなくてもいいんだというクラブ、会員もいらっしゃるんですね。そういう中で1回も休会してないと、すごい事だなど、ロータリーに対しての思いなんだろうと、ロータリー大好きなんだろうと、そんなことを改めて感じ伺ったような次第でございます。会長、そしてガバナー補佐の素晴らしいスピーチの中でコロナのお話が出てました。52歳で亡くなった方の話もされておりました。実は皆様ご存じだろうと思いますが、喜多方ロータリークラブの佐原先生が5月3日にお亡くなりになりました。実はその5日前に私、郡山で会議ございまして先生と隣合わせでした。別れ際に、じゃお互いコロナに気を付けながら頑張ろうと言って別れたんです。そしてその5日後、亡くなられたというお話をいただきまして本当かなと思いましたねえ。確認しましたら、お亡くなりになられたというお話を伺いまして、大変なショックを受けたわけですが。その時、アシスタントガバナーも仰っておられましたけど、その時改めて思いましたのは人の命というのは儚いんだなとい

うことをまず感じましたねえ。あれだけロータリーが大好き、まさにミスターロータリアン。本当、亡くなっちゃうんだなあ。それは私は身をもって体験しましたですね。あの方くらいロータリーが大好き、そしてこの2530地区はもとよりのこと、国内のロータリーに奉仕を務めた方はそういらっしゃるだろうということで、私はかねがね尊敬をしておりました。本当に残念だなあと、今でもそう思っております。喜多方ロータリークラブさん、この後ガバナーを輩出されるわけですが大変だろうと。この前もちょっと私行って来たんですけど大変だろうと。ただ、先生の意思を継いでとにかく素晴らしい年度にしたいということだけは申し上げてまいったような次第であります。私が大変お世話になった方で、白河、そして白高を出られまして税務署に入られて、最後は福島で税理士事務所を起ち上げられた大竹さんという方、大変お世話になった方おられますが。もちろんお亡くなりになり、ご存命であれば多分93歳か94歳だと思うんですがお亡くなりになられたんですが、この方は白河をこよなく愛してましたねえ。白河良い所だ。歌に詠まれている関もある。世界まで行かないにしても、日本に冠たる南湖公園がある。そして、松平公がおられると。それと、お城がある、自然がある。最後も白河で終わりたいということをおられました。それだけ白河というのは素晴らしい所なんだなと。また、東邦銀行の瀬谷さん、多分白河を全部引き上げられたんだらうと思いますね。福島に素晴らしいお宅を持っておられたんですけど、それも処分をした。ただ、瀬谷さんとすれば最後まで白河におられたかったんだらうと、そんなふうに私思っております。それだけ白河というのは素晴らしい所なんだろうと。このことを感じておったような次第であります。20日間くらい前ですか、ガバナー補佐の昇さんからお電話をいただきまして、今度空いてる時にスピーチやれよというお話をいただいたんです。ロータリーではノーてことはない私らは教育を受けてきたんですけど、昇さんからそう言われるとこれは私断れない。最初、今から11年12年前ですかね。お会いさせていただいた時に、この人はちょっと違うなと私思ったんです、正直言うところ。まあ、本人に言ってませんけども。いずれ、2530地区のリーダーになる男なんだろうと、直感的に私思ったんですね。それで現在ガバナー補佐をやっておられる。今のガバナー補佐というのは、この後のことの雑巾がけ多分やってんだらうと思いますけども、是非ひとつ皆さん応援していただいて出してやっていただきたいなと。それだけ能力もあるしと思います。ガバナーやる時に、そんな機が来ましたら

非やっていたきたいし、またクラブ自身も大人になるんですよ。ガバナーなんて一人じゃできないですから。中には一人でやったなんて人いるかもしれませんが、一人じゃできない。みんなの応援があって初めてできる。そのクラブ自体のレベルもかなり上がってきますね。ですから、是非その時期が来られましたらば、皆さんで応援、支援してやっていただきたい。お電話いただいたはいいんですけど、ガバナー補佐から何の話をしろとか何かというのは一切ない。一週間ほど前ですかね、ロータリーの実践というコピーが来ただけなものですから、そういうことを話をしろということなのかと思っていたんですけど。ロータリーの実践を含めて私が日頃感じていることをお話をさせていただきたいというふうに思います。皆さんにコピーをお配りしてあろうかと思いますが、一番上に職業奉仕の理念ということを謳ってございました。これポール・ハリスは今から100年前、こういうことを仰っているんですね。社会に役立つ人間になる本はいろいろある。しかし、最も身近で最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業にあるんだということを仰っている。ポール・ハリスだって最初は親睦だったの。親睦、一人で寂しい。だから、仲間3人を引っ張り込んでロータリークラブ作ったんですね。最初から高邁な職業奉仕だということは言っていなかったはずですよ。やってるうちに、やはりロータリーの神髄っていうのは職業奉仕なんだなということに目覚めて、数百年後にこういった言葉を言っておられますね。ロータリーの神髄は職業奉仕なんだということを言っておるわけでありまして。その次からの行については、私なりに考えたことを書かせていただいたんですが。ロータリーのロータリーたる所以は職業奉仕なんだと。これ私は一貫して変えません。まあいろんな事を言う人いますが、ロータリーのロータリーたる所以というのが職業奉仕だと。若松に福西先生という弁護士の先生おられますけど、あの方はこう仰っておられましたね。もしロータリーに職業奉仕がなかったらば、私はロータリーにいないと。そういうことを極言されておられました。ロータリーに職業奉仕があると、こんな素晴らしい集まりは世界探しても多分ないだろう。だから、僕はロータリーやっていると仰っておられましたけど、まさに言い得て至言だろうなというふうに思ったような次第であります。同じことなんですけど、職業奉仕これも道徳、倫理観を持ってやらなきゃいけない。儲かりゃいいってもんじゃない。今、NHKの大河ドラマで言ってますね。「青天を衝け」というんですか。あそこで渋沢翁が言ってる、儲けなさいと、利益を出しなさいと。それを還元しな

さいということ、渋沢翁は言っておるわけでして。ただ、その利を求むるのにも道があるんだと。ただ儲かりゃいいってもんじゃないんだと。これは孔子なんかも言ってますよね。もっとも渋沢翁のベースになってるのは、論語から来てますんでね。ですから、大いに儲けなさいと。ただ儲けたものについては還元しなさいと。ただ儲けるにしたって道があるんだと。道を外したことはやっちゃいけないと。そういうような倫理観であり、道徳だろうというふうに思います。次に私書きましたのは、近江商人の言葉に「売ってよし、勝ってよし、世間よし」というのがありますが、私なりに見て作るというのではないんじゃないかと。であれば、三方よしじゃなくて四方よしじゃないだろうかと。言って、作ってよし、売ってよし、買ってよし、そして利益が上がったらそれを世の中に還元するということで四方よし。これは近江商人の基本的な考え方ですね。その近江商人の中から、伊藤忠商事。今では三菱商事、三井物産、財閥系がトップだったんですけど、今やそれを抜いて近江商人。まさに商売の原点ですよ。それをかたくなにやってきた伊藤忠商事、それは今商社ナンバーワンになったわけでありまして。それと近江ですと高島屋ですね。デパート大変苦労しているんですけど、百貨店のナンバーワンは高島屋が近江から出たんです。それと残念ながら、福島に中合という百貨店があったんですよ。出来て200年近かったんですね。それが最終的に福島からなくなって、地球上からなくなった。この方も近江商人なんです。ですから、商売の原点になってるのは考え方というのは、やはりその三方よしが原点になってるんだろうなと。売って喜ぶ、買った方も喜ぶ。そして、利益が出たのであればそれは納税という形でもって世間がいいんだということが近江商人の考え方だろうと思いますね。素晴らしい言葉だと思います。三方よしということがあります。釈迦に説法だと思いますけど、そこに私は作るということの一つ加えさせていただきました。そのうちに、職業奉仕の究極は会社を倒産させないことなんだと、私はそう思っております。いくら立派な事を言っても会社倒産させたのであれば、それはロータリーの精神にものつとらないし、倒産させない事だと思いますね。ちょっと具体的な話を失礼ですけどさせていただきたいんですけど、一例ですね。私の3年前かな、2530地区のガバナーをやられた方がおられます。この方は青年会議所ブロック長もやられて、ガバナーをやられた後かな。最終的に倒産したわけです。私もちょっと手伝ってくれと言われてお手伝いをさせていただいて、最終的には不良債権になったんですけども、これはロータリーの仲間としては、いいよと思って私

やったんですが、そこで倒産して。うちは債権があったもんですから、相馬裁判所に呼ばれたんですよ。そこでこれぐらいの会場だったと思うんですが、正面に裁判官がおられて、その前に秘書官とかなかなか大勢おられて。そこで正面に向かって右側に、元ロータリーのガバナーとその奥さんと、被告人ですよ。なんていうか私わかりませんが、お二人いらっしゃった。あれを見て本当にロータリーをやってきたんだらうかと。なんとってロータリアンとして大事なことは信用、信頼だと思うんですよ。それを全くなくしちゃって。それでご夫婦ですよ。被告席というのかなんか知りませんが、そこにおられて。絶対、職業奉仕の基本になるのは絶対潰しちゃいけないと。迷惑をかける、多くの人に。最終的に、世間全般に迷惑をかけるということになるんだらうと思いますので、絶対に倒産だけはしちゃいけないというふうに思いますね。誰もが倒産したいと思って倒産させる人はいないんでしょうけども。元我々の先輩ガバナーとして、大変残念だったなあというふうに思います。ロータリーはいいんですけど、ロータリーを一生懸命やる前に自分の仕事を一生懸命やるということだと思いますね。やっぱり、どうしても中にはロータリーのバッチを付けたいという方おられるわけですよ。去年あたりも除名かなんかになったのかな。ロータリーのバッチを付けたい。ロータリーのバッチがないとビジネスにならないという方もおられるんでしょうけども、それは本末転倒もいいとこでね、私は根本的に違うと思いますね。我々はそういうことにならないようにということとで勉強してるわけですから、こうやって例会に出るといのはそういうことだと思うんですね。ダイヤモンドというのは、ダイヤモンド同士じゃないと研磨されないんだそうですね。ロータリーも一緒だと思いますね。やはり、ロータリアン同士切磋琢磨しながら人作り。最終的に人作りだと思いますね。是非、素晴らしいロータリーという中におられるわけですから、是非これを生かしていく、いかなきゃいけないんだらうなというふうに思っ一応資料に付けておきました。その次



からは、皆さんそれぞれ考え方、好みがあると思うんですが、いわゆるご自分の仕事を通して世のため人のために貢献された方。私が思いつくままといいますか、記載させていただきました。まず最初に、緒方洪庵。これは大阪で適塾といういわゆる学校を作られたドクターですね。そこで江戸に呼ばれたんですけど、そんな所でやるよりもということで大阪に戻られて皆さんと一緒に勉強をした。その弟子には福沢諭吉もおられるわけよ。ある意味じゃ明治という国家を作った一人であろうかと思いますが、福沢諭吉が弟子としておられた。あと日本の軍隊、日露戦争に行った軍隊を作った大村益次郎。こうした弟子おられたんですね、その先生。素晴らしいことを言っておられるのが、医者がこの世で生活してるのは人のためなんだ。自分のためではない、決して有名になろうと思うな。また、利益を追うと思うな。ただ、自分を捨ててそして人を救うことだけを考えろということを経方洪庵は。素晴らしい方、こういう方が日本におられた。本当すごい方だだと思いますね。これは実は、緒方洪庵を私初めて知ったのは先程申し上げた佐原先生。佐原先生から教わった。佐原先生はこれを喜多方の学校に広げたみたいですね、喜多方の学校に。ですから、この白河っていうのも松平公がおられてね、すごい方が出られるので、まさにこれなんかぴたり合うんじゃないでしょうかね。自分のためじゃない、人のためなんだということと言っておられるわけでありす。次は、広田弘毅を好きなものですから書かせていただいたんですけど。これは商売とは関係ない政治家です。この方は九州福岡でお生まれになられて、外務省かなんか入ったんでしょうかね。ただ一人、巢鴨プリズンに入って絞首刑になった民間人でただ一人です。あとは皆軍人。これ書いてありますのは、「自らの為に計らず」ということを仰っているんです。自分のためには何も運動も何もしない、「自らの為に計らず」。そして、「風車、風が吹くまで昼寝かな」ということを言っている。ちょうど吉田茂と同時代なんですね。広田弘毅はそういうパフォーマンスはできなかった。それに反して、吉田茂はパフォーマンスまだあれあの人華族かなんかと引っ張りがありましたんでね。総理になったということを聞いておりますけど。広田弘毅はそういうことをしなかった。お父さん早く亡くして大変辛い思いをされた方だと思うんですが、自らの為に計らず。みんな自分が可愛いもんですから、自らの為に計る。悪いことをしても、自らの為に計るということなんだらうと思いますが、自らの為に計らずという。すごい事を言っておられるなあ。このあたりロータリーですね。そのうち先程もちょっと仰いまし

た渋沢栄一。渋沢栄一の基本的な考え方というのは、「論語と算盤」という本を出していますけど、ベースになっているのは論語なんですね。孔子をベースにしてやってるんですけど、やはり渋沢翁がいなかったら今の日本の形態もちょっと変わってきたのかな。渋沢翁はとにかく合本主義というんですかね。株式会社、みんなでこの国を殖産興業していこうよということを言っている。それに反して、三菱の岩崎弥太郎はいや違う。金儲けは俺一人でやるんだということでやってきたんですけど、最後に有名なのは多分瀬戸内海かどうかで、両方とも汽船持ってダンピングが始まったんですね。最終的に、岩崎弥太郎が亡くなって終わったんじゃないかなと思うんですけど。いずれにしても日本の資本主義のベースを作ったのは、私は渋沢栄一なのかなということ、言う人に言わせるともし渋沢栄一に岩崎的な考え方があれば、三井、三菱を凌駕した素晴らしいグループを作ったんだろうということを経済評論家なんかも言ってるようですね。そのくらい素晴らしい方だったようです。この前のテレビでもやってましたが、ただ残念ながらかどうか知りませんが、女性にはちょっと行儀が悪かったということが書いてありましたね。それが渋沢栄一、すごい人だと思います。次に書いてましたが、田中正造さん。これは足尾銅山で天皇陛下にまで直訴したんですね。それは今の水俣に繋がっているということを言ってますね。それで最後何もなかった。ずだ袋には鼻紙と読み返した聖書しかなかったということのようですが、やっぱりすごい方が明治におられたんだなと。自分の命を顧みず天皇に直訴したと等々のようですね。やっぱり、明治時代にこういう凄い方がおられたんだろうと思います。やっぱり、その基本になるのは私欲がない、私心がないということなんでしょうね。ロータリーと一緒にですね。自分のことよりも相手が先。ギブ&ギブ。それがややもすると、テイク&テイクになってしまう。それがこういう方々は、ギブ&ギブということでやってこられたんだと思いますね。次に書いてありますのは、大原孫三郎。これは、クラブウ、クラレ、岡山のどこでしたっけ、あそこに行きますとありますね公園みたいなそういうものを作られた。社会貢献をされたということでしょうね。紡績会社を幾つ作ったかじゃない。いかにして社会貢献をしたか。先程、昇さんが仰っておられましたけど、どういう生き方をしたかということなんだろうと思いますね。うちのクラブのメンバーに法上さんがいらっしゃるものですから、聞いたことあるんですよ。法上さん、最後棺桶に行く時にお金持ってた人いるのと。ガールフレンド好きだったから、ガールフレンド一緒に行っ

たって人いるのって聞いたの。そしたら、いない。何にも持ってってない。ただ、一つだけあるでしょう。何それって聞いたらば、なんか集金か何かに行って交通事故で亡くなったらしいんですよ。その時に、血の付いたお札があったので、それを一緒に入れてあったということを書いておられましたけど、あとは見たことがない。やっぱり、先程から仰っているようにどういう生き方をしたかということに尽きるんだろうなというふうに思いますね。この大原孫三郎さんという方は、もう中国地方の岡山のありとあらゆる事業をやられている。世に残して行かれた。今でもこうやって残っているわけですね。これは大原孫三郎さん、すごい方だと思います。それと石田礼助さん。民間人から国鉄総裁になられましたね、この方は。なんたってすごいのは78歳でもって総裁を引き受けられて、多分この方は鎌倉かどうかのお住まいだった。電車通っていた。国鉄総裁になられて、書いてありますように国会に呼ばれたんですね。国会に呼ばれて国会議員の先生の前で「国鉄がこのような状態になったのは、諸君代議士の皆さんにも責任があるんだ」ということを言っている。今の先生方はね、仲間の方たすきかけてマイク持ってやってるんでしょうけど、こういう方と会えるだろうかと。皆さん付度して、できたら大臣の椅子を欲しい。ねえ、ひがみじゃないけどねえ。そういう方がいる中で、こうやって国鉄を駄目にしたのはお前らなんだということを言ってる。やっぱり自分がないからでしょう、私心がないから、こういうことを言えると思いますね。私心があればこういうことは言えない。やっぱり、すごい方がおられたんだなというふうに思います。それと何といても我々は米山翁ですよ。東京でお生まれになって、静岡県にお婿さんに行って、それでアメリカでロータリーと出会って、そこで日本のロータリーを作った。まさに、ロータリーの血であり三井信託を作ったのも米山翁。息子さん二人亡くしてるんですよ。そういう中でも、奉仕活動やってきた。すごい方だと思いますね。やっぱり最後、財産なんかもなくて終わったようですね。おそらくクラブで米山記念館に行かれておられるんだろうと思いますが、いっぺん先祖返りじゃないですけど米山翁のお墓で手を合わせられるのもロータリー活動の一つかなというふうに思いますね。すごい方だと思います、この方も。あとは我々はこの方々をトップにいただいているということは本当にありがたいと思いますね。全部自分のためじゃない、皆さんのためってやってこられた方でありまして、もしこの方がいらっしゃらなかったら我々こうやって集まってないんじゃないでしょうかね。すごい方だと私は思っております。

やっぱり、最後自分がないということでしょうね。やっぱり、世のため人のため。世はいいんですけど人のためにという、にんべんがあるので偽りということにもなりますので、ちょっとかなと日頃思ってるんですけど。人のためというのは嘘じゃないのかなと。自分のためにやってるんじゃないかな、そんなことを感じたことあるんですけど。まあいずれにしても、私は米山翁をトップにいただいて奉仕活動できてるということは本当にありがたいと思いますね。ポール・ハリスのお墓あるでしょう、シカゴに。そこには奥さんいらっしゃらないんですよ。私その理由は聞かなかったんですけど、誰だって普通の人は御夫婦で入っておられると思うんですよ。ところが、奥さんいないんですよ。奥さん、イギリスにお休みになっておられるということを聞いた。何でだったんだろうなと。ポール・ハリス、ロータリーばかりやってるもんだから出されたのかどうか分かりませんがないんですよ。それでちょっと何百メートルあった所に、ライオンズのメルビン・ジョーンズですか。あれライオンズの創始者の墓はあるんですよ。そのポール・ハリスの奥さんの墓はない。それ以上、誰も聞かないで終わっちゃったんですけど。そんなことを今思い出したんですが、米山翁は夫婦仲が良かったということを聞いてますね。素晴らしい方だったんじゃないでしょうか。ですから、何べんも申し上げますけどこういう方を我々トップにいただいているということは本当にありがたいことだだと思いますね。そんなことを米山翁で感じました。時間がないものですから最後、中村哲先生のことだけちょっとお話をさせていただきたいと思います。つい先だって、アフガニスタンで暗殺されました。この先生、我々は自分の職業を通して世のため人のため。中村先生は職業はドクターですから。医師を通して、世のため人のために。それじゃないんです。これだけでは駄目なんだと。それよりも水がなきゃどうしようもない。野菜、森がなきゃどうしようもないと言って、自分でブルドーザーかなんか持ってやったわけでしょう。すごい人だと思いますね、これは。まだ70くらいでしたかね。まだお若い。息子さん言ってますよ。息子さんにすごいこと言ってますよね。口でばかり立派な事を言ってんじゃなくて、行動を実行しようということを言っているんですね。本当、我々考えさせられることです。ロータリー我々そうですよ。確かにある意味じゃ、理想を追求してるかもしれない。立派な事を言ってるかもしれない。しかし、実行してるのと。口でばかり立派な事を言っているんじゃないって実行しなさいということを息子さんに言ったというんですね。すごい方だなと、本当に惜しい方

を亡くされたなと、本当の大和魂を持っていた方じゃないんでしょうかね。そんなことを感じて、もうこれ半端になりましたが、もし機会でもありましたらまたお話をさせていただきたいんですが、時間のようで催促が来たもんですから失礼させていただきます。どうもありがとうございました。

○国際ロータリー第2530地区

中央分区分ガバナー補佐 鈴木美恵子様



皆様、こんにちは。今日は、8月の末にありました福島から贈る感謝とエールのコンサートの時に、白河西ロータリークラブの皆様には大変ご協力をいただきまして、感謝の気持ちを伝えたいと思いました。その時に、大橋パストガバナーは奥様と一緒にお祝いを持って駆けつけてくださいました。それから、先日のレディロータリアンとの交流会におきましては、またこのクラブから多くの皆様に参加いただきまして、心から感謝いたします。今後共どうぞよろしくお願いいたします。金田さんには大変お世話になっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○国際ロータリー第2530地区

県南分区分ガバナー補佐 金田昇様

ありがとうございました。以上を持ちまして、ガバナー補佐担当例会を終わらせていただきますが、大橋廣治パストガバナーにおかれましては益々のご健勝で私たちをリードしていただけるかと思っております。最後になりますが、私は会社の社長としてやっていく上で、経営の指針として渋沢栄一公、それからピーター・ドラッカーの言葉をいつも感心して紐解いて聞いておりますが、もう一人大橋廣治パストガバナーの背中を見ながら頑張っております。今後共、ご指導よろしくお願い致します。本日は、ありがとうございました。

